

# ホクコーファーストオリゼ<sup>®</sup>リディア<sup>®</sup>粒剤

■種類名：フルピリミン・プロベナゾール粒剤

■有効成分：フルピリミン----- 2.0%  
 プロベナゾール----- 20.0%

■化管法指定物質：プロベナゾール [第1種] ----- 20.0%

■登録番号：第24300号

■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指していう通称)

■登録初年：2019.10.23

■性状：淡褐色細粒

■有効年限：3年

■包装：10kg×1袋

## 【特長】

- 水稻のいもち病、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシを長期間にわたり同時防除できる。
- 稲（箱育苗）のは種前（床土混和）または、は種時（覆土前）処理専用剤です。
- リディアは新規作用機作を有しており、既存の各種殺虫剤に感受性が低下した害虫種にも有効である。

## 【適用内容】（2024年11月末日現在）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルピリミンを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 もみ枯細菌病 白葉枯病 イネミズゾウムシ イネドロオイムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ イナゴ類 フタオビコヤガ ニカメイチュウ イネツトムシ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌 約5%) 1箱当り 50g	は種前	1回	育苗箱の 床土に 均一に 混和する	3回以内 (移植時までの 処理は1回以 内、本田では 2回以内)	2回以内 (移植時までの 処理は1回以内)
	いもち病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) もみ枯細菌病 白葉枯病 イネミズゾウムシ イネドロオイムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ イナゴ類 フタオビコヤガ ニカメイチュウ イネツトムシ	高密度に は種する場 合は1kg/10a (育苗箱(30× 60×3cm、使用 土壌約5%) 1箱当り 50~100g)	は種時 (覆土前)		育苗箱の 床土に 均一に 散布 する。		

## 【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 本剤を育苗床土に混和する場合には薬害を生じる場合があるので、下記の注意事項を遵守すること。
  - ◆ 山土、畑土などを使用する場合は、十分に乾燥させてから使用すること。
  - ◆ 粒剤を混和した床土は高温多湿での保管をさけ、すみやかに使用すること。
  - ◆ 粒剤が破砕されるような過度な混和はさけること。
- 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
- 育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%)1箱当りに乾粕として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。
- 本剤処理後の低温で生育抑制を生じるおそれがあるので温度管理に注意し、適切な育苗につとめること。
- 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
- 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後に田面が露出したりしないよう水管理に注意すること。
- 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合は使用をさけること。
- 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予測される場合は使用をさけること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

### 【安全使用上の注意】

- ❖ 誤食などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- ❖ 使用の際は農業用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- ❖ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- ❖ 夏期高温時の使用をさけること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。